

会報 99号

発行 一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)

そのまなざしが、心を支える

令和6年度 第11回 静岡県介護技術コンテスト開催される

開催日時 / 11月23日(土) 10:00~16:00 会場 / グランシップ10階

澄み渡った秋空、悠然とした富士山を背に静岡県内から介護従事者が選手として集まりました。人物像は『看取り期の岡本静江さん』1名とし、その方の「食事支援」「体位変換支援」の2部門で課題に応じた実技を披露していただきました。昨年同様県内養成校学生さんと共に運営を担いました。今年度は専門職としての『家族支援』へのアプローチ、更なる一步を深めた参加型として学生さんに「孫役」としてのモデル参加といった二つの新たな取り組みを行いました。参加者の皆様がそれぞれに学びあい、刺激を受けた1日でもありました。土を耕し、種を植え、水をまき、花が咲く。介護福祉に携わっている方々の土壌を少しでも豊かに育み、参加された方が将来、素敵な花を咲かせることができるようになるため、『肥料』であり『水』でもある、そのような発展の場として今後も介護技術コンテストが一翼を担えらとと考えております。参加の皆様ご協力ありがとうございました。 介護技術コンテスト実行委員長 佐藤 葉子



最優秀賞(県知事賞)

- ・食事支援部門 介護老人保健施設 楽寿 尾崎 三枝様
- ・体位変換支援部門 デイサービス 菜の花 大畑由佳理様



静岡県介護福祉士会会長賞(個別援助計画書優秀賞)

- ・食事支援部門 特別養護老人ホーム 小鹿なでしこ苑
ヌル・アジザー様
- ・体位変換支援部門 デイサービス 菜の花 大畑由佳理様



受賞者からの言葉

今日はありがとうございました。感謝の言葉と共に一人で取った賞ではない事、楽寿会の皆さんといただいた賞だと感じています。私は、この楽寿会の理念【健やかに老いることは総ての人々の願いであります。利用者の方々の健康状態にあった環境を整え、安心して過ごせる場所を心こめてつくりました】この言葉を胸にご利用者に寄り添ってきました。これからもこの気持ちを大切に頑張って参ります。食事支援 最優秀賞 介護老人保健施設 楽寿 尾崎 三枝



私はデイサービスに努めており、体位変換は暫く行っていませんでした。そのため、ケアコン出場に当たり 図書館に通って勉強したり、先輩方に教えていただいたりしました。クッションを使うにしても使い方によってはご利用者様の自由を奪う事を学んだりしました。今までの自分の介護がどうだったのか振り返る良い機会になりました。また、個別援助計画書では、自分一人の力ではなく、事業所が一丸となって考え作成した事で賞をいただくことが出来て本当に良かったです。

体位変換支援 最優秀賞 介護福祉士会会長賞 デイサービス菜の花 大畑由佳理



最優秀賞の大畑さんのアピールポイントは、「小さな変化をくみ取る。」です。言葉に出せない利用者の気持ちに寄り添う自然な笑顔と穏やかな声掛けが印象的でした。参加された競技者のみなさんは、丁寧な声掛けや日頃からご利用者様に寄り添い信頼関係を作る姿勢が見受けられました。自分の力を思う存分に出せた方、緊張で思うように出来なかった方も「今日の経験を今後の介護に活かしてまた挑戦します。」と感想を話され、その力強い言葉が成長と自信に繋がり、介護の学びの忘れられない一日になったことでしょう。広報委員 坂下 裕



応援団の声が 飛び交う中コンテストが スタートしました!

「食事支援」部門



「体位変換支援」部門



参加された学生さん・来場者からの感想

2年連続で学生審査員をやらせていただきましたが、今回も声掛けや介助について多くのことを学びました。4月から介護職として働くので、安心感のある介護ができるよう、頑張っていきたいと思います。(学生)

初めて介護技術コンテストに参加しました。利用者様に負担をかけさせない配慮ある介助など、一連の動作がスムーズで自分の介助と比べ、経験も実力も優れているのだと圧倒されました。今後、介護福祉士として働く人材となるためにも、この経験を活かし、その人に合った、安全かつ負担の少ないケアができるような介護福祉士を目指し日々頑張りたいと思います。(学生)

先輩方の技術を見て本当に勉強になることが多く、貴重な体験をさせていただきました。利用者様、一人ひとりに寄り添い支援する姿を見て、声掛けの仕方や介助の際に配慮する点を学びました。実習に入った際に気をつける点など、今回改めて学ぶことができ良かったです。(学生)

言葉掛け一つにしても、声のトーンや大きさで相手の捉え方が変わることは現場でも感じています。今一度自分のケアを振り返ることができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。(来場者)

十人十色という言葉があるように、本当に人の数だけその人からの気づきや声掛け、支援、介助方法があるんだと勉強させていただきました。(来場者)



イベント講演「福祉レクリエーションミニセミナー」

多くの皆様に福祉レクリエーションの意義と目的そして魅力を理解していただくために『楽しさをおとした心の元気づくり』をテーマにミニセミナーを行いました。静岡県介護福祉士会の会員でもあり、静岡県レクリエーション協会副理事長を務めておられる倉島修氏が講師となり、コミュニケーションづくりのジャンケンゲームや懐かしい歌謡曲(演歌)にのって、歌いながら身振り手振りをする歌体操を体験しました。脳を活性化する福祉レクリエーションは、高齢者のみならず老若男女、世代を超えて楽しめるものです。介護現場だけでなく、幼稚園、学校、町内などの集まりの中でも活用してみてください。





介護の明るい未来
2024

まなびや

「介護の学舎」開催される

■開催日 / 10月14日(月) ■会場 / 静岡県総合社会福祉会館 703 会議室

テーマ「ケアのとびら」～その人らしさの見つけ方～

介護福祉士として障がい福祉と高齢福祉を分けることなく「ケアとは何か」を学ぶ

【1～3時限目】

障がい福祉「中伊豆リハビリテーションセンターさまわらび」様、高齢福祉「ニチイケアセンター(在宅)様、養護老人ホーム(松風荘)様の3事業所から、それぞれの個別支援についての事例報告が発表された。報告内容は種別特性が明確でとても勉強になるものであった。特に聴覚言語障がいをもつご夫婦の近所との関わりでの困難事例は、ヘルパーとケアマネ、地域の方々と一緒に取り組んだ成功事例で、ストレンクス(強み)とウィークネス(弱み)に着目した参考になる内容であった。また、養護老人ホームとはどのような方が対象なのか、入所までの流れが特養とは違い、措置入所されてこられる利用者は、理由・境遇が様々であることなど、実際を知るよい機会となった。

【4時限目】

コーディネーターに聖隷クリストファー大学の野田由佳里氏、コメンテーターに静岡県立大学短期大学の尾崎剛志氏、鈴木俊文氏に参加いただきグループワークを行った。各グループを発表者がラウンドシ、

さらに活発に意見交換することができた。

参加者からは、『それぞれの方が働いている施設での現状や取り組みを知り、新しい考えや知識の引き出しが増えた。

また、ゴールが目標ではなく、目標の過程が一番大事だと気づき、地域での関りの大切さや認知症や障がいの理解が必要であることを介護福祉士として知る必要性を改めて感じた』などの感想をいただいた。

多くの気づきと学びを得られる『介護の学舎』を継続するためにも、会員や介護に携わる多くの方に参加・協力していただき更なる学びの場を目指していきたい。

広報委員 鈴木 淡



研修報告

介護現場におけるICT化の必要性を開催し感じたこと

■開催日 9月29日(日) ■オンライン(ZOOM)研修

暑さの残る9月にタダカヨの藤田博之氏をお招きし、第一回オンライン研修「介護現場におけるICT化の必要性」を開催させていただきました。

本研修は今秋から日本介護福祉士会主催で行われている「デジタル中核人材養成研修」につながる研修として企画し、講師の藤田氏やファシリテーターの中邑さん、加藤さん、緒方さん、そして私もサブ講師として参加しました。当日は、実際に参加者と一緒にスマホを活用して「手書き文章のデジタル化」や「AIツールを活用した音声入力」を体験してもらいました。また、グループワークで自職場での現状と課題についても一緒に話しをさせていただきました。その際に私自身が感じたことは、ICT化やデジタル技術の導入に関し、施設間格差が大きく、これから一層拡大していくように感じました。ではなぜICT化が進まないのか、以下の2点を考えました。

- ① **職員の知識不足** まずICT化に関する知識不足があるように感じています。ICT化は決して特別な事ではなく、自職場の問題を分析し、課題を明確化するとともに、その課題の解決策としてICTやデジタルテクノロジーが活用できるのかを考えてみるのが大切です。しかし、ICTやデジタル技術に知識のある職員が少ないために、導入に至らなかったり、導入しても上手に活用できないケースもあると思います。また、人手不足の介護現場では、現状維持が精いっぱい、新しいアクションが取りにくいという問題もあると思います。
- ② **導入コスト** ICT環境を整えるためには、施設内の通信(Wi-Fi)環境の整備が必要となります。また新たなデジタル機器を導入する際には多くのコストが必要となります。しかし、知識不足により費用対効果や、将来的な効果を測ることができず、導入コストの高さばかりに目を向けてしまいがちです。

ICT化に関しては、まずは「業務改善に必要な知識」であると理解し、勉強することが大切だと感じました。講師の藤田さんが所属している「タダカヨ」のホームページを検索するとICT初心者からでも学べる講座が全て無料ですので、是非一度のぞいていただき活用してほしいと思います。そして、ICT化は決して高価なものを購入するだけでなく、身近なスマホを活用してでも始められることはたくさんあり、職員が取り組みやすいものから導入を測ることも大切だと思いました。

オンライン研修担当 理事長岡 紀澄



第4回 災害フォーラムを終えて

■開催日／8月3日(土) ■会場／静岡県総合社会福祉会館703

今年度は「報告から学ぶ災害支援～災害に備え、今何を準備しておくべきか～」をテーマとし、能登半島地震体験報告、災害時のアセスメントと福祉用具の活用の2部制での聴講やグループワークを行いました。

今回災害に遭われた石川県介護福祉会と日本介護福祉士会が連携し、近隣県をはじめとする各都道府県からの災害支援活動受け入れや運営、発災後の支援活動において介護福祉士としての専門性を生かしたアセスメント力が支援活動にも重要な役割になってくることなど、午前午後を通じ学ぶ貴重な時間となりました。今後は、近隣県介護福祉士会や県内他職能団体の方々と具体的な連携方法、県内の災害情報ネットワーク作りなどもテーマとして災害フォーラムを継続していきたいと思えます。

災害支援委員長 長倉 浩之



「第31回 全国大会・第22回 日本介護学会inしまね」に参加して

11月15、16日に開催された全国大会は出雲の国に日本全国から神様たちが集まる神在月でした。隣の松江市には全国から介護福祉士が集結し「つながる歴史で介護の価値を高める～生産性向上時代に求められる介護福祉士像～」について語り合いました。私が参加した第2分科会は認知症ケアについての取り組みの発表が行われ、神奈川県通所事業者の管理者が職員と利用者が一緒に手作り楽器を使用して地域のイベントで演奏を披露した報告をして頂きました。「認知症」だから出来ない決め付けた考えをなくし「認知症」であっても出来ることを見つけ共に参加するという姿勢がすごく伝わってきました。また、職員のやりがいや利用者の役割の発見など「認知症ケアから生まれたみんなの喜び」として両者にとって貴重な経験になっていました。管理者の利用者だけでなく職員のやりがいも導いていた内容は忙しくて介護福祉士としての役割を見失いがちな今の状況に光を与えてくれた実践内容となっていたことが心に残り、出雲の神様に素敵なお縁を頂きました。

副会長 増田 知佐子



知ってるようで知らない

介護・福祉サービス

デイケア(通所リハビリテーション)と デイサービスって、どう違うの？

デイケアは、病院や老健（老人保健施設）に併設しているところが多いです。

主な目的：デイケアは、リハビリテーション（日常生活の自立支援含む）デイサービスは、日常生活の介護（趣味活動・運動・体操含む）

職員配置：デイケアは、医師、看護師、介護福祉士等の介護職員リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士） デイサービスは、看護師、介護福祉士等の介護職員、機能訓練指導員、最近のリハビリ特化型デイサービスには、理学療法士もいます。

サービス内容：デイケア、デイサービスともに、送迎・レクレーション活動・入浴・食事等のケアサポートも行います。各事業所ごとに特色がありますので、見学やお試し利用を行うことをお勧めします。

富士・富士宮ブロック 小崎 純子



福祉レクリエーション ニュースポーツ「ペットコン」

富士宮市レクリエーション協会考案「ペットボトルコンペティション」は、1998年に道具などにお金がかからないゲームをとということで考案されました。

【道具】 空の350ml角型のペットボトル12本にビー玉6個ずつを入れ、ペットボトルの側面に(1・2・0・1・1)と書く。2種類の色の違うキャップ各6個、2種類の色の違うカットカーペット各2枚、ラインテープ1本。

【遊び方】 投げ線から4mくらいのところに2色のカーペットを市松模様のように並べます。(動かないようにテープで固定してもいいです。) 1チーム1人から6人で対戦し交互に投げ合い、11点先取で勝敗を決めます。投げ方は前足でラインを踏み、アンダースローで投げます。得点は、キャップを同色のカーペットに乗せた時の点数を合計します。子供から高齢者まで誰でも参加できる簡単なゲームですので、是非作って楽しんでください。白熱します。(笑)

駿東・田方ブロック 倉島 修



令和6年度 **ブロック活動報告** (6月～11月)

駿東・田方

■交流会 (Potluck party=持ち寄り食事会) 8月2日(金)19:00～21:00

昨年に続き、三島市中心部にある幼稚園をリノベーションした施設(みしま未来研究所)を会場として開催。開放感があり、誰でもふらっと立ち寄れる雰囲気の中、シェアする食べ物を持ち寄り参加者が集まった。ほとんどの方が初参加であったが、話してみると職場が近い、知り合いが勤めているなど話が尽きることがなかった。会場には「今日の感想」と「研修アイデア募集」というスケッチブックを用意し、自由に記載してもらった。「今日の感想」では『他施設の方と交流ができ良い機会となった。』『普段の悩みや情報を交換しながら楽しい時間を過ごせた。』『初めてで少し緊張していたが、みなさんフレンドリーで気兼ねなく話ができ仲間ができた。』『卵と昆布巻きがおいしかった。』という食べ物のコメントもあり参加者それぞれの「らしさ」が出ていておもしろかった。

ここ数年、コロナで縮小気味だったブロック活動が着実に動き出したことを感じると共に、ブロックだからこそできる活動を仲間と一緒に作り上げていきたいと思う。

駿東・田方ブロック理事 宇佐美 真澄



■自分も相手も守る介護技術 講師：須田 和枝氏

11月10日(日)13:00～15:00

やってほしい研修で毎回上位に挙がる「介護技術研修」を企画。台風の影響で8月から11月に延期開催となりましたが、みなさん勤務調整しながら総勢20名が参加されました。移動介助の演習では、職場で困っているケースの対応の質疑応答や互いの施設の介助方法を共有する時間もあり、他施設の方との交流も図ることができました。アンケートからは「誰も教えてくれなかったことを学べた」「他施設の方と悩みを共有ができた」などの声もいただき、今後も少しずつバージョンアップして企画していけたらと思います。

研修を企画するにあたり、ブロックの会員が自主的に活動に参加し協力してくれたことに感謝と心強さを感じることができた研修となりました。

駿東・田方ブロック理事 宇佐美 真澄



静岡市介護福祉士会 10月13日(日)9:30～12:00

■ボーリング大会&福祉レクリエーションミニセミナー

対面ならではの交流ができ大変盛り上がりました。会員、非会員とも名刺交換したり、参加者同士、情報交換も行うことができました。ボーリング大会の勢いそのまま「福祉レクリエーションセミナー」に移り、お菓子やジュースを飲みながら楽しい雰囲気の中レクリエーションで交流会ができたと思います。

福祉レクの倉島講師がボーリング大会から参加してくれたことで、さらに親睦を深められたイベントとなりました。非会員の皆様には事務局長から会のパンフレットを配布、今後のPRにもつながりました。

静岡市介護福祉士会ブロック長 山田 英和



中東遠 6月28日(金)13:00～15:00

■介護技術研修～移動・移乗編～

基本的な介助の研修ですが、他施設の方と介助が困難な事例を共有し、現場で困っている対応の介助方法を学びました。すぐに現場で活かせる内容で好評でした。

中東遠ブロック理事 杉本 洋子

西部地区合同 (中東遠ブロック・浜松ブロック)

9月22日(日)12:30～16:45

西部地区合同/シナプソロジー研究所協賛研修

講師：黒木 勝紀氏

■シナプソロジー® ～脳が喜ぶ刺激について根拠を学ぼう～

■認知症の症状を有する方への接し方研修

～認知症ケアから見える発信力～

人は誰でも、何かに熱中し楽しいと感じている時は、比較的穏やかに過ごすことができます。反対に自分の置かれている状況を理解できないときや、言いたいことを上手く伝えられない時は不安になるものです。認知症の症状を有する方も同じです。上手く表現できずに不安が募り、気持ちを周囲に理解してもらえない苛立ちから攻撃的になり、落ち着きがなくなってしまうだけです。今回は、現場で活かせるシナプソロジー®メソッドを活用して、脳が喜ぶ刺激を楽しみながら、脳を活性化させると同時にコミュニケーションを再認識して、認知症ケアから見える発信力を軸に変わっていく自分を体現できる場となりました。今まで培った知識や技術を活かすためにも「行動変容と発信力!!」が大切だということ学びました。

浜松ブロック理事 榎本 利



認定介護福祉士 に聞いてみた!

「その人らしく輝ける場所の支援をめざして」

「人の役に立ちたい」と思い介護の世界に入り、病院の介護職員となりました。実務経験を経てやりがいを感じ介護福祉士を取得し生涯研修に挑戦。基本研修、ファーストステップ研修、認定介護福祉士養成研修を受講しました。研修が進むなか、いわれのない重圧に押しつぶされ、自信喪失する事もありましたが、一緒に受講した仲間や諸先生方の支えもあり、無事修了する事が出来ました。現在、地域包括ケア病棟に勤務し、地域の高齢者と関わる機会が多い中、認定介護福祉士として多職種との連携の中核となり、地域の介護力向上への働きかけ等の役割を日々意識しているところです。地域包括ケア病棟は、介護施設や在宅生活中に状態が変化され、救急搬送された高齢者や急性期の治療を終えた患者様を受け入れ、在宅復帰を見据えた介護実践を行います。入院後、治療・療養でベッド上での安静を余儀なくされ、元の生活に戻れるのか不安となっている患者様に対し、認定介護福祉士の役割として、入院前の生活状況を把握し定められた入院期間で、①多職種と協働し、在宅復帰を見据えた生活方法を検討する。②患者様の個々の疾患に合わせた介護実践をケアチームで行う。③家族の不安を傾聴し、問題点を見だし、解決案の提案や退院に必要な介護技術の指導を行う。④他事業所との状態確認・ケアの引継ぎ等を行い、サービスを途切れることなく提供する等多岐に渡る内容を試行錯誤しながら、奮闘しているところです。高齢化の進展に伴い、医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者が増えています。

これからの介護福祉士は、介護福祉士としての基本的資質・能力の他に、医療現場で生活支援を担う為の資質・能力、地域支援を意識した介護実践能力、ケアの発信に必要な能力が必要と考えます。皆さんと研鑽を深めていき、地域の高齢者が『その人らしく輝ける場所の支援』を一緒に行っていきたいと思います。

富士・富士宮ブロック 中澤 朋子

介護・福祉4団体合同研修「地球のステージ」

■開催日 / 11月16日 ■会場 / しずぎんユーフォニア

世界の紛争・災害地域を巡って医療支援活動を行う医師、桑山紀彦氏を講師に迎え、各地で出会った人々との体験を音楽・映像・語りを組み合わせてコンサートステージで伝えていただきました。参加者からは、『桑山先生の貴重な活動を知り、どんな環境でも強く生きていく子供たちの姿を目の当たりにして、感動で心が震えました。生きることの意味、そしてこれからの自分自身の生き方を考えさせられました!』等多くの感想をいただき、自分自身を見つめる有意義な時間となりました。(今年度の担当 静岡県社会福祉士会)



新入会員の加入状況

令和6年4月～令和6年11月 78名
(会員番号2205239～2205317)

■富士・富士宮ブロック	6名	■駿東・田方ブロック	24名
■熱海・伊東ブロック	2名	■下田・賀茂ブロック	2名
■静岡市介護福祉士会	15名	■志太・榛原ブロック	14名
■中東遠ブロック	6名	■浜松ブロック	9名

事務局より

ケアウエルに登録すると各種会員情報の変更・イーラーニング学習の視聴・ご自身の研修履歴(一部)等も見る事ができます。静岡県介護福祉士会でもメールで情報共有できるよう随時準備していますので、ケアウエルにメール登録がない方はぜひ、メールアドレスをご登録下さい。



1) 令和3年度以前に入会された方

<https://jacw-carewel.study.jp/rpv/remind.aspx> にアクセスしてID・パスワードの発行請求をして下さい。

2) 令和4年度以降に入会された方

入会手続き後に発行されるID・パスワードを使ってログインして下さい。



IDパスワード発行 ケアウエル個人サイト

編集後記



師走も足早に過ぎ、次年度事業の企画思案中。今年のケアコンテストは施設想定でしたが看取り期の利用者さんが課題でした。在宅で過ごしたい高齢者が多い中、訪問介護事業所の閉鎖が後を絶たない昨今、現実と施策の矛盾を何とかしたいという熱い思いの静介は「よし訪問介護を応援しよう!」という機運です(^^) また、子供と一緒に参加した介護・福祉4団体合同研修「地球のステージ」も本当に感動的でした。(普段興味を示さないのにずっと良かったよ良かったと...) 忙しい毎日から、非日常を感じて明日からの活力となる素敵な時間を過ごすことができました。生きる力の素晴らしさを体感し、これからの支援のあり方を見つめ直す良い機会になりました。年末はとにかく体力勝負! 体調に気をつけてよいお年をお過ごしください。(村松広報委員長&事務局)